

大府医発第468号
令和5年12月19日

郡市区等医師会長 殿

一般社団法人 大阪府医師会
会長 高井 康之
(公 印 省 略)

「AI ホスピタルを実装化するための医療 AI プラットフォームの
構築に必要な技術に関する研究開発」事業「医師の意識調査」について

平素は本会事業に格別のご高配を賜り厚くお礼申し上げます。

さて、このたび日本医師会より標題の件について周知依頼がございました。

現在、内閣府による研究開発成果の社会実装への橋渡しプログラム (BRIDGE) において、医療機器等や IoT 機器を活用し、患者情報の網羅的収集、ビッグデータ化に加え、AI 技術を活用した AI ホスピタルの開発・構築 (「AI ホスピタルを実装化するための医療 AI プラットフォームの構築に必要な技術に関する研究開発」) が進められています。AI ホスピタルの実装によって高度で先進的かつ最適化された医療サービスの提供体制が整備されるとともに、医療従事者の負担軽減が期待されています。

これらの社会実装を見据えた際に、どのような視点に留意して研究を進めていくべきかを明らかにするため、今回、医療現場における AI 技術開発への期待と懸念についての調査が実施されることとなりました。詳細は下記のとおりでございます。

1. 調査対象

日本医師会会員の医師

2. 調査期間

令和5年12月15日 (金) ~ 令和6年1月19日 (金)

3. 回答方法

(1) Web による回答

<https://www.jmacai.med.or.jp/enquete/profile/2> もしくは右記 QR コード

(2) FAX による回答

別添調査票記入の上、日医総研 (03-3946-2138) ~ FAX



また、日医総研より郡市区等医師会様宛に郵送にて同様の内容が発送されているとのことです。

貴会におかれましても本件についてご了知いただくと共に、貴会所属の会員医療機関への周知につきご高配を賜りますようお願い申し上げます。

大阪府医師会総務課企画室 TEL06-6763-7021

＜内閣府BRIDGE＞
「AIホスピタルを実装化するための医療AIプラットフォームの構築に必要な技術に関する研究開発」事業
「医師の意識調査」

web回答いただく場合のホームページ
日本医師会AIホスピタル推進センター
<http://www.jmacai.med.or.jp/>

本調査の回答期限
令和6年1月19日（金）17：00

【本調査に関するお問合せ先】日本医師会AIホスピタル推進センター 担当／吉田
e-mail : supportdesk@jmacai.med.or.jp

【ご回答者の基本情報】

氏名		勤務先名称	
役職		メールアドレス	
所属先の都道府県	1：北海道 2：青森 3：岩手 4：宮城 5：秋田 6：山形 7：福島 8：茨城 9：栃木 10：群馬 11：埼玉 12：千葉 13：東京 14：神奈川 15：新潟 16：富山 17：石川 18：福井 19：山梨 20：長野 21：岐阜 22：静岡 23：愛知 24：三重 25：滋賀 26：京都 27：大阪 28：兵庫 29：奈良 30：和歌山 31：鳥取 32：島根 33：岡山 34：広島 35：山口 36：徳島 37：香川 38：愛媛 39：高知 40：福岡 41：佐賀 42：長崎 43：熊本 44：大分 45：宮崎 46：鹿児島 47：沖縄		
年齢	<input type="checkbox"/> 20歳代 <input type="checkbox"/> 30歳代 <input type="checkbox"/> 40歳代 <input type="checkbox"/> 50歳代 <input type="checkbox"/> 60歳代 <input type="checkbox"/> 70歳以上		
勤務施設	<input type="checkbox"/> 大学病院 <input type="checkbox"/> 国立病院機構 <input type="checkbox"/> 公立・公的病院 <input type="checkbox"/> 民間病院 <input type="checkbox"/> 診療所（有床・無床） <input type="checkbox"/> その他		
病院規模	上記「勤務施設」で「病院」と回答された方にお伺いします。 <input type="checkbox"/> 500床以上 <input type="checkbox"/> 200床以上500床未満 <input type="checkbox"/> 200床未満		

【本調査の構成】

- この調査票は2つの区分で構成されています。
- ・調査区分1：医療とAI（人工知能）について
 - ・調査区分2：AIホスピタルにおけるAI技術開発への期待と懸念について

【本調査への回答にあたってのご注意】

1. 本調査は意識調査ですので、「現在」の状況でご回答下さい。
2. 選択して回答いただく項目では、「いずれか1つ」や「該当するものすべて」等の質問がありますので、ご注意下さい。

調査区分1 医療とAI（人工知能）について

＜医療とAIについて＞

近年、人工知能（artificial intelligence, AI）や機械学習（machine learning, ML）が搭載された医療支援のためのプログラムの開発が世界中で行われています。AIは、持続的にデータを収集・分析し、その結果をアップデートして、絶えず性能が変化していきます。

医療への活用を目指した研究では、疾患の予防、診断、治療方針、予後等に関する医師の支援のための技術開発が進められています。

質問1 先生ご自身が臨床現場や臨床研究の場において、AI技術に関わった経験がありますか。
いずれか1つを選択してご回答下さい。

- ある ない わからない

質問2 AI技術に関わった経験の有無に関わらずお伺いします。国内、国外で研究が進められている医療用AI技術について、具体的な研究や製品についてご存知ですか。
いずれか1つを選択してご回答下さい。

- よく知っている研究や製品がある
※具体的な研究名や製品名について、わかる範囲で結構ですので、記入して下さい。（任意）

- 概要を知っている研究や製品がある
※具体的な研究名や製品名について、わかる範囲で結構ですので、記入して下さい。（任意）

- 知っている研究や製品はない

質問3 AI技術に関わった経験の有無に関わらずお伺いします。国内、国外で研究が進められている医療用AI技術について興味がありますか。
いずれか1つを選択してご回答下さい。

- おおいに興味がある
 ある程度興味がある
 あまり興味がない
 まったく興味がない
 わからない

※ご回答いただいた理由について、お聞かせください。（任意）

BRIDGEにおける「AIホスピタルを実装化するための医療AIプラットフォームの構築に必要な技術に関する研究開発（本研究開発）」の概要

◇本研究開発の背景・目的

医療機器等やIoT機器を活用し、患者情報の網羅的収集、ビッグデータ化に加え、AI技術を活用したAIホスピタルの開発・構築が進められています。AIホスピタルが実装化されると、高度で先進的かつ最適化された医療サービスの提供体制が整備されるとともに医療従事者の負担軽減が期待されます。

コロナ禍により非接触型の診療・治療に対するニーズが以前よりも高まっていることや2024年度から医師の時間外労働の上限規制が適用されることなどから、AIホスピタルの実装化は喫緊の課題となっています。

AIホスピタルの実装化のためには、医療AIの開発や医療機関への普及を促進するための医療機関とAI開発事業者（AIベンダー）をマッチングさせる場が必要ですが、現状ではそのような機能を有する場の整備は十分ではありません。

◇本研究開発の事業概要

そこで、本研究開発では、AIホスピタルの実装化を進めるため、医療AIサービスの開発から製品化、サービス提供までを支援し、医療機関とAIベンダーのマッチングの場となる「医療AIプラットフォーム技術研究組合（医療AIプラットフォーム）」を構築・運営し、プラットフォーム事業の検証を行います。

◇本研究開発によって期待される効果

優れた医療AIサービスが持続的に開発され、医療機関に提供することが可能となるプラットフォームが構築・ホスピタルの実装が促進され、運営されます。これにより、AI先進的かつ最適化された医療提供体制の整備が可能となります。

◇本研究開発の採択プロジェクト

テーマ	研究開発プロジェクト名	研究開発機関
1	医療AI サービスの普及・発展に資する医療AI プラットフォーム開発	医療AIプラットフォーム技術研究組合
2	医療AIプラットフォーム事業の検証、ガバナンス機能の整備	公益社団法人日本医師会
3	小児・周産期病院におけるAI サービスの技術的な実証・検証	国立研究開発法人 国立成育医療研究センター
3	未来型医療システムの基盤となるAI ホスピタルモデルの構築	慶應義塾大学病院
3	AI基盤拠点病院の確立	国立大学法人大阪大学 医学部附属病院
3	ヒトとAIが共生した患者・スタッフに優しいAIホスピタルの実現	国家公務員共済組合連合会 横須賀共済病院

◇日本医師会AIホスピタル推進センター

この医療AIプラットフォームの運用に際しては、利用者である医師・医療機関とサービス提供事業者の双方に対してガバナンスを発揮し、一定の公平性・公益性を担保していく必要があります。その任に当たるために、日本医師会では会内に「日本医師会AIホスピタル推進センター」（当センター）を設置しております。

当センターでは、本格運用にむけて、さまざまな試行運用を実施し、情報提供をしております。

質問4 医療の現場でAIホスピタルシステムを活用した支援技術の導入に期待されていますか。
いずれか1つを選択してご回答下さい。

- 期待している 期待していない わからない

質問4 SQ-1

質問4で「期待している」と回答された方にお伺いします。医療の現場で期待されるとお考えのAIホスピタルシステムの支援技術を教えてください。
該当するものすべてを選択してご回答下さい。

- 予防に関する支援技術
 問診に関する支援技術
 鑑別診断に関する支援技術
 画像診断に関する支援技術
 治療方針に関する支援技術
 手術に関する支援技術
 看護記録や管理、療養に関する支援技術
 その他

質問4 SQ-2

「その他」に回答された方にお伺いします。期待される具体的なAI技術があれば記載して下さい。（任意）

質問5 医療の現場でAIホスピタルシステムを活用した支援技術の導入に懸念はありますか。
いずれか1つを選択してご回答下さい。

- 懸念はある 懸念はない わからない

質問5 SQ-1

質問5で「懸念はある」と回答された方にお伺いします。医療の現場で懸念される点を教えてください。
該当するものすべてを選択してご回答下さい。

- AI技術の信頼や品質に対する懸念
 医師とAI技術の責任範囲に関する懸念
 患者と医師の信頼関係に対する懸念
 医師や医療従事者の業務負担に関する懸念
 技術の導入と維持費用に関する懸念
 その他

質問5 SQ-2

SQ-1で回答された内容について、具体的な懸念があれば記載して下さい。(任意)

質問6 医療用AI技術を活用して医師が起業することについて、関心はありますか。
いずれか1つを選択してご回答下さい。

- 関心があり、医師が起業することについてどちらかと言えば肯定的である。 関心があり、医師が起業することについてどちらかと言えば否定的 特に関心は無い/分からない。

質問7 医療用AI技術を活用した医師による起業について、具体的な事例をご存知ですか。
該当するものすべてを選択してご回答下さい。

- 既に自分で医療用AI技術を活用して起業している/起業の準備をしている。
 知り合いの先生が医療用AI技術を活用して起業している/起業の準備をしている。
 関連する学会やセミナー等で医師が医療用AI技術を活用して起業する事例を聞いたことがある。
 医師が医療用AI技術を活用して起業する事例を新聞や専門誌等で読んだことがある。
 知らない/分からない。

自由記載

医療とAI技術について、ご意見がございましたら記載して下さい。

これで質問は終わりです。ご回答いただき、ありがとうございました。